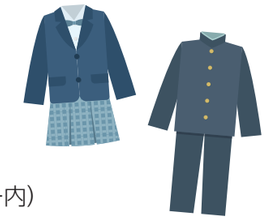
陸前高田制服リユース事業

SDGs GOAL 3 すべての人に健康と福祉を
SDGs GOAL 12 つくる責任つかう責任

市では、市社会福祉協議会への委託事業として、子育て世代の経済的負担軽減と地域の資源循環などを目的に、制服リユース事業を行っています。

令和６年度は138点の品を回収し、92点の品を、必要とする40人へ提供しました。

引き続き皆さんのご協力をお願いします。



対象品目

❶市内中学校指定の制服（上・下）　❷シャツ（半・長袖）　❸ネクタイ
❹ジャージ（上・下）　❺Tシャツ　❻半ズボン　❼スクールバッグ

回収ポスト設置場所

❶市役所１階市民交流スペース　❷市社会福祉協議会（市保健福祉総合センター内）
❸アムウェイハウス「まちの縁側」　❹市コミュニティホール
※制服はクリーニング不要です。譲渡の際に改めてクリーニングしたものをお譲りします。

申込方法

❶LINE
次の二次元コードから「くらし応援窓口」を友達登録して申し込み
❷電話
問い合わせ先へ連絡して申し込み
※在庫状況によりご希望に添えない場合があります。

LINEからの申し込みはこちら

問い合わせ先　市社会福祉協議会「くらし応援窓口」☎0192(54)5150

ご当地キャラが大集合！

日本製鉄釜石シーウェイブスを一緒に応援しよう！

SDGs GOAL 17 パートナーシップで目標を達成しよう

岩手三陸連携会議（令和７年度事務局：陸前高田市）では、岩手のスポーツ振興と普及に貢献し、東日本大震災でも大きな被害を受けながら、共に復興に向かって歩んできた日本製鉄釜石シーウェイブスを、同クラブのホーム開幕戦に併せて応援するイベントを開催します。

たくさんのご当地キャラクターも駆け付けますので、みんなで一緒に盛り上げよう！

岩手三陸連携会議とは

三陸沿岸地域の振興や東日本大震災からの復興のため、岩手県沿岸市町村が協働で活動する会議体。洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町・宮古市・山田町・大槌町・釜石市・住田町・大船渡市・陸前高田市の13市町村で構成。

内　　容：❶構成市町村の中学生以下先着100名を無料招待（500円分の食事券付き）
❷ご当地キャラクターや選手との記念撮影　など
日　　時：12月21日㈰（午前11時開場、午後１時５分キックオフ）
場　　所：釜石鵜住居復興スタジアム（釜石市鵜住居町第18地割５－１）
申込方法：申し込みフォーム
※保護者同伴の場合、保護者分のチケットは自己負担となります。
一般のチケット購入の詳細は、申し込みフォーム中に記載しています。
申込期限：12月17日㈬

イベントの詳細はこちら

お申し込みはこちら

問い合わせ先　市役所企画政策課政策広報係（内線334）

定期連載 教えてSDGs

その先の笑顔のため、いまできること

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsとは？　自分の子どもや孫たちが暮らす未来に、住みやすい地球（世界）を残すため掲げられた全世界の人が取り組むべき目標

あなたもぜひSDGsに取り組んでみませんか？

本市は、令和元年（2019年）７月に「SDGs未来都市」に県内で初めて選定されました。
「その先の笑顔のため、いまできること」編では、本市でSDGsの達成に向け積極的に取り組んでいる人・団体、関連イベントなどを紹介しています。

SDGs GOAL 3 すべての人に健康と福祉を
SDGs GOAL 4 質の高い教育をみんなに
SDGs GOAL 10 人や国の不平等をなくそう

矢作小学校でユニバーサルマナー アカデミックプログラムが開催されました

10月30日㈭、矢作小学校５・６年生７人を対象とした「ユニバーサルマナー」を学ぶ体験型ワークショップが、同校で行われました。

講師に招いたのは、生まれつき視覚障がいのある㈱ミライロの原口淳（はらぐちじゅん）さん。前半では、身近にあるユニバーサルデザインの例として、スロープや多機能トイレなどのほか、電気スイッチの意外な使いにくさについて紹介。指が不自由な人でも押しやすいように大きめに作られている最近の電気スイッチは、照明のオン・オフを、スイッチ自体についている小さなライトの色で判断する仕様になっている場合が多く、視覚障がいがある人にとっては、実は使いにくいことがあるという実体験を伝えました。

電気スイッチの例

誰かにとって便利なものでも、他の誰かにとっては使いにくい場合があることを伝えながら、より多くの人にとって便利な世の中にするためには、相手の気持ちになって考えることが大切だと話しました。

後半では、イラストを見ながら、そこに載っている人物が何に困っているのかを考えるワークを実施。同じイラストでも捉え方はさまざまで、何に困っているのかは本人に聞いてみないと本当のところは分からないとしつつ、想像してみることの重要性を伝えました。

最後には、目の見えない人の役と誘導役の２人１組になって、安全に誘導するワークを体験。講師とハイタッチをするというお題では、誘導役が、目の見えない人役と講師がうまく手を合わせるための伝え方に苦戦しながら、見事全員がハイタッチに成功しました。原口さんは「全員がハイタッチできたのは、相手のことを考えて行動できたから。その気持ちを忘れないでほしい」と締めくくりました。

ハイタッチに成功した児童たちと原口さん（右）

村上朔哉（むらかみさくや）さん（６年）

ワークショップを通じて、目が見えないと何があるか分からず怖いと思った。そのためにもユニバーサルデザインはとても大切だと知り、学んだことをこれからの生活に生かしていきたい。